



## 「オンライン挨拶」

校長 渡崎 次郎

令和2年10月31日(土)、新型コロナウイルス禍の中、ハロウィーン当日となった東京・渋谷には異例の光景が広がっていた。例年は衣装した若者でごった返し、逮捕者も多く出る。だが今年は、区が中心となり来訪自粛を促しており、コロナ禍としては多くの人であふれたが、衣装した人や、トラブルはほとんど見受けられなかった。

同日、長崎市西山台2丁目のアパートの一室にも異例の光景が広がっていた。畳の上に置かれた広いテーブルの中央にパソコン、足もとにクラッカー。テーブルの左横に日本酒、右横に「さだまさし」さんのCDがセットされたプレーヤー。パソコンに向かって左に私、右に嫁さん。パソコンの中には、大学を卒業し、働き出したばかりの娘と、その娘を奪おうと企てている一人の青年が、緊張した面持ちで正座していた。

青年は大学の少林寺拳法部で娘と出会ったそうだ。貧血で体調を崩しがちだった娘を支えてくれたと嫁さんから聞いたことがある。学年が2つ上で、大学院を修了し、浦和市の製薬会社で働き出したばかりだそうだ。社会人になってからも娘との交際は続き、休みの日にはコロナ禍の中、片道2時間かけて川崎市に住む娘に会いに行っているそうだ。ふーん、そうですか。ありがとうございます。

8月に娘から相談があった。結婚したいそうだ。別に反対する理由もないが、私はその青年に会ったことがない。嫁さんは卒業式の日と一緒に食事をしたらしい。優しくそうな人だったとのこと。そうですか。娘は防衛関係の仕事に就いていて、籍を入れてから半年間はできない業務があるらしい。だから早めに籍だけ入れて、一緒に住みたいとのこと。おい、おい、ちょっと待ってくれよ。筋が通ってませんよね。第一、娘も青年のご両親に会ったことがないという。「まずは挨拶に行ってくい」と言って時間を稼ぐことにした。

10月3日(土)、娘から連絡があった。神奈川県平塚市の青年のご両親に挨拶してきたそうだ。たくさん楽しい話題を振っていただいて、とてもありがたかったとのこと。認められたということか。

10月5日(月)、娘から連絡があった。引っ越しの準備を始めて、仮押さえした物件の保証会社の緊急連絡先に私の名前を書いたとのこと。おーい、何で私の名前かな?っていうか、まだ許可してないんですけど。頭にきたので、「筋を通せ」と嫁さん経由で伝えたら、いつ挨拶に来ればいいのかとの返事。「こんなコロナ禍の中で関東から長崎に来られたら、お互い困るやろ」と嫁さん経由で伝えたら、じゃあどうすればいいのかとの返事。よって、前代未聞の「オンライン挨拶」をすることになったのである。

(裏に続く)

10月11日(日)、娘からの連絡。そろそろ「オンライン挨拶」の日程を決めたいとのこと。「考えとく」とだけ答えるつもりが、「彼氏はお酒飲めるのか？」と聞いてしまった。娘は喜んだ様子で、「お父さんと比べると弱いかも知れないけど、普通くらいは飲めるよ。」と返してきた。いらんこと聞いてしまった。

10月19日(月)、嫁さん経由で11月7日(土)はどうかと聞いたら、その日が引っ越しと言うではないか。何たることか。筋が全く通らなくなる。よって、引っ越しする前の10月31日(土)に運命の日を迎えることとなったのである。別に反対する理由はない。ただ「筋を通せ」と言いたいだけだ。いつかそんな日がくるとは思っていた。予想より少し早かっただけだ。

「さだまさし」さんの歌に、「親父の一番長い日」というのがある。演奏時間12分30秒もの大作である。お嬢さんと結婚させてほしいと挨拶に来た青年に対して、「わかった。その代わり一度君を殴らせろ」というフレーズがある。娘の父親とはそんなものかと、ずっと思っていた。冗談で嫁さんに、「親父の一番長い日」を流そうか？と言ったら、「本気で言いよる？」と真顔で言われた。

14時を少し過ぎた頃、その会は始まった。事前に会次第を娘に送っていた。

1 自己紹介 2 挨拶 3 結婚許可 4 乾杯 5 歓談

パソコンの中で自己紹介と挨拶をしている青年の目を、私はじっと見つめていた。隣で心配そうに座っている娘も視界に入っていた。そして、あっという間に「お嬢さんと結婚させてください。」というフレーズが耳に届いた。会次第に「結婚許可」と入れたし、「こちらこそ、よろしくお願いします。」と、サクッと言うつもりだった。しかし、その言葉が出てこなかった。その代わりに涙が出そうになった。しばらく沈黙が続き、やっとの思いで話し出したが、何を話したか覚えていない。娘への思いというより、これからの2人の人生のことを話したような気がする。とにかく結婚を許可したのは間違いない。

そこから先は気が楽だった。2人の末永い幸せを願って、事前に送っておいた日本酒で乾杯、拍手、クラッカー、そしてCD再生。流れてきたのは「さだまさし」さんの「親父の一番長い日」ではなく、「奇跡」という曲だった。この曲は、私と嫁さんの結婚披露宴で新郎新婦入場の時に流した曲だ。これには嫁さんも感動したようだった。娘の目にも涙が浮かんでいるように見えた。やりきった。父親としてできることは全てやりきった。その後は私の独壇場だった。私が喋り、3人が爆笑する。実に気持ちの良い時間だった。入籍するのはいつでもいい。2人の幸せを心の底から祈ります。おめでとう。

豊玉高校の皆さん、いつか君たちもこんな気持ちになるときが来るかも知れませんね。

※2人は令和3年1月に入籍したが、新型コロナ流行のため、1年半後の令和4年7月に挙式。



## 第47回豊高祭 infinity～最高の瞬間を～



10月29日(日)豊玉町パルドームにて第47回豊高祭が実施されました。今年は創立50周年記念大会ということで、体育祭・文化祭ともに、50にちなんだ競技、装飾、ステージ発表がありました。体育祭の部では、リレーや綱引き、集団演技が行われ、文化祭では、50周年に花を添えるステージで、ダンスと動画、職員有志によるバンドが披露されました。最後には、生徒と松下様による共同制作楽曲「豊玉高校50周年記念ソング」がお披露目されました。お越しいただいた皆さま、有難うございました。



熾烈を極めた各ブロックの戦い



最後の豊高祭で最高の思い出を



集団演技では新しいことに挑戦

## 韓国文化交流体験

11月17日(金)本校にて韓国文化体験を行いました。生徒は韓国語を用いたハングルコースター作りや韓服体験、料理教室ではチヂミを作り、美味しくいただきました。対馬とも交流の深い韓国の伝統や文化に触れる貴重な体験ができました。ご協力いただいた対馬市役所、対馬市国際交流協会様、対馬story様有難うございました。



オシャレに着こなすパジチョゴリ



## 創立50周年(分校創立73周年)記念式典・記念芸術鑑賞会

11月10日(金)天候が心配されましたが、豊玉高校創立50周年記念式典・記念芸術鑑賞会を行うことができました。当日、お越しいただいたご来賓の皆さま、地域の皆さま有難うございました。豊玉高校はこれからも少人数の魅力を生かし、生徒一人一人と向き合うことで、より良い教育の充実に努めて参ります。芸術鑑賞会では、対馬で音楽活動をされている松下寛史・祥子様ご夫妻をお招きし、「対馬の祈り」をはじめとする音楽を鑑賞しました。松下様には生徒と共同で、豊玉高校50周年記念ソングの作成にもご尽力いただきました。会場全体を包む素敵な歌声は、豊玉高校のこれまでの50年を労い、次の50年を歩み出すのにふさわしい素晴らしいものになりました。松下様、この度は有難うございました。



生徒代表挨拶を行う永留玲奈さん



感動に包まれたオリジナルソング

## 12月中旬～1月の行事予定

12月15日(金)	強歩大会・PTCA支援活動	1月9日(火)	始業式・中掃除・容儀検査
12月21日(木)	球技大会	1月10日(水)	PTCA評議員会
12月22日(金)	大掃除・終業式	1月11日(木)	1・2年三者面談週間 (-1/17)
		1月25日(木)	3年学年末考査 (-1/29)

豊玉高校ホームページは  
こちらから



豊玉高校紹介動画は  
こちらから

